
布施晶子前学長追悼記念号の発刊に寄せて

学 長 奥 谷 浩 一

この度、『人文学会紀要』第91号が無事発刊の運びとなりました。その発行を心から慶賀申し上げますとともに、お忙しいなか、本号のために玉稿を寄せられた先生方のご苦勞に心から敬意を表します。今号は、昨年4月に逝去された札幌学院大学前学長の布施晶子先生を偲ぶ追悼記念号でもあります。したがって今号は、本学および人文学部にとって特別の意義をもっています。

故布施晶子先生は、学長二期目の最後の年の2009年秋になって急に体の変調に気づき、病院に入院検査されたところ、不幸にも末期の症状であることが判明しました。その後、10月初旬からおよそ1年半にわたって気丈に病魔と闘い続け、病が進行しているにもかかわらず一昨年3月の卒業式には車椅子に乗って式場に駆けつけて式辞を述べられるなど、闘病中にも学園関係者に強い感銘を与え続けられました。しかし、忍び寄る病魔の進行には勝てず、学長職に復帰することはついになわずに、ご主人の手厚い看護と看取りを受けて、2010年4月5日早朝、とうとう永遠に苦しみのない世界へと旅立たれました。享年74歳の生涯でした。同年4月9日、関係者によって「お別れの会」が札幌聖堂にて行われ、友人・教え子はじめてくさんの人々のご参列をいただきました。私自身、その参列者の多さと布施先生に対する追悼の思いの深さに、先生の交際範囲と人脈の広さ、周囲の人々に与えた影響力の強さ、学恩の深さを改めて実感した次第です。

布施先生の経歴と業績について、ここで簡単にご紹介申し上げます。

布施先生は、1937年に札幌にて出生され、札幌東高校をへて、北海道大学文学部を卒業された後、1966年に同大学大学院文学研究科修士課程を修了されました。その後、東京声専音楽学校、昭和音楽短期大学で教鞭を取った後、1975年に札幌に戻られて札幌静修短期大学教授となり、1977年4月当時札幌商科大学人文学部の開設と同時に本学に教授として着任されました。本学では、家族社会学、婦人論、ジェンダーの社会学など、現代家族と婦人問題・女子労働の問題を専門に研究される傍ら、通算3期にわたって教務部長を務められたほか、図書館長としても活動されるなど、学内行政にかんしてもその手腕を大いに発揮されました。布施先生は2004年に札幌学院大学第9期学長に選出され、2007年にも再選されて学長職2期目を務められることとなり、少子社会のあおりをまともに受けて私立大学の経営が全国的に悪化するなか、本学の大学再編・再創造と

いう大きな課題に取り組んで奮闘しておられました。そのさなか、大学再編の仕事を未完に残したまま不治の病魔に倒れられた布施先生は、さぞかしご無念の極みであったに相違ありません。

私は、布施先生よりも半年前の1976年10月に当時の札幌商科大学に着任したので、布施先生はおよそ34年にわたって私の先輩同僚であったことになります。その布施先生から本学学長のバトンタッチを受けて後任の学長の任を引き受けた私には、布施先生が果たそうとして志半ばで果たせなかった大学再編という大きな仕事をやり遂げるべき責務があります。現在、18歳人口の激減、大学全入時代の到来を迎え、地方の弱小私立大学には大学の生き残りをかけた激しい競争が展開されています。こうした厳しい情勢のなかで、いやこうした厳しい情勢だからこそ、本学教職員が一丸となって大学再編をやり遂げ、2018年以降に見据えた大学サバイバルのための足固めを行わなければなりません。布施先生には草葉の陰から本学の未来を熱く見守っていただきたい。そのように心から念願し、布施先生を心より偲びつつ、追悼記念号の巻頭言とさせていただきます。